




神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	望月 正光 (もちづき まさみつ)	
現職	関東学院大学経済学部教授 (博士 (経済学))	
主な経歴	東京都立大学大学院博士課程修了後、関東学院大学専任講師、助教授を経て現職	
専攻分野・研究テーマ	財政学、地方財政論	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】</p> <p>The Economics of Sub-National VAT, Yuhikaku P., 2013.</p> <p>『地方消費税の経済学』 (共著) 有斐閣、2010</p> <p>『所得税の実証分析－基幹税の再生を目指して』 (共著) 日本経済評論社、2010</p> <p>『財政学 (第3版)』 (共編著) 創成社、2009</p> <p>『第三セクター：再生への指針』 (共編著) 東洋経済新報社、2007</p> <p>『二元的所得税の論点と課題』 (共著) 日本証券経済研究所、2004</p> <p>『公債と政府部門のストック分析』 (単著) 白桃書房、1997</p> <p>『財政学総論』 (共著) 中央経済社、1996</p> <p>【委員・役員歴】</p> <p>総務省「第三セクター等のあり方に関する研究会」委員他、横浜市「横浜市税制研究会」、 「公共事業評価委員会」、 「横浜みどりアップ計画市民推進会議」委員他、小田原市「下水道審議会」委員、日本財政学会理事、日本地方財政学会理事、 日本財政学会機関紙『財政研究』編集委員長</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県「神奈川県地方税制等研究会」委員 (2009-現在)、神奈川県「神奈川県地方税制等研究会・地方消費税に関するWG」委員長 (2009-2010)、神奈川県「神奈川県特別職報酬等審議会」会長 (2012-現在)	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>グローバル社会における租税論の国際的新潮流に関する研究</p> <p>オールド付加価値税とニュー付加価値税の税收効果・厚生効果に関する研究</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>本県は、「神奈川県地方税等研究会」における先進的な研究成果として実施されている「水源環境税」や環境政策への取り組みに見られるように、全国の地方公共団体のリーダーとして活躍している。今後も新しい行政領域にチャレンジすることを期待したい。</p>	
連絡先	〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1 関東学院大学経済学部 電話：045-786-7056 (庶務課)、045-786-7065 (望月研究室) E-mail：mochi@kanto-gakuin.ac.jp	

神奈川の研究者紹介< Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	三輪 のり子 (みわ のりこ)	
現職	関東学院大学看護学部准教授 (博士 (看護学))	
主な経歴	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了 富山医科薬科大学、千里金蘭大学を経て、2013年より現職	
専攻分野・研究テーマ	老年看護学、地域・在宅看護学、疫学・公衆衛生学	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Applicability and Issue of Interactive Telecommunication as a Support Tool of Health Promotion for the Elderly in Rural Area, <i>9th MITA (proceedings)</i> : 103-106, 2013. (共著) ・ テレフィットネスによる高齢者健康増進活動—体感ビデオゲームを用いた地域コミュニティづくり—, <i>日本遠隔医療学会雑誌</i>, 8(2) : 223-224, 2012. (共著) ・ New indicators for the evaluation of community policies based on period and cohort effects in cerebrovascular disease mortality rates, <i>Japan Hospitals</i>, 28 : 79-85, 2009. (共著) ・ わが国における20世紀の脳血管疾患死亡率の変動要因と今後の動向, <i>日本公衆衛生雑誌</i>, 53(7) : 493-503, 2006. (共著) ・ 出生コホート分析を用いた脳卒中罹患率の検討—富山県脳卒中情報システム事業より—, <i>厚生</i>の指標, 51(11) : 10-16, 2004. (共著) 	
神奈川県との関わり	現在はありますが、今後、神奈川県をフィールドとした実践的な研究に取り組みたいと思っております。	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>サクセスフル・エイジングを叶える社会システムの構築を目指した教育・研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢・時代・世代特性の視点を取り入れた健康施策の支援 ・ ICTを活用した高齢者の健康づくりやコミュニティ形成の支援 (運動を中心に) ・ 高齢者ケアの質を高める次世代育成のための教育ツールの開発 <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>今ある仕組みを「質」の高いものにするためには、産・官・学が各々の専門性や役割を活かして取り組める意識・体制づくりが必要だと考えます。特に、県民ニーズの高い健康づくりや生活環境の整備に向けて、これからも県が積極的に連携強化・調整役となり地域の実情に合った施策を長期的視点で展開してくださることを期待しています。</p>	
連絡先	〒236-8503 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院大学看護学部 電話：045-786-5653 (学部庶務課 看護学部事務室) E-mail : miwa@kanto-gakuin.ac.jp	


神奈川の研究者紹介< Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	天野 勝文（あまの まさふみ）	
現職	北里大学海洋生命科学部教授（博士（農学））	
主な経歴	東京大学大学院博士課程修了後、日本学術振興会特別研究員、北里大学水産学部講師、助教授を経て2008年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	水族生理学	
主要業績 （これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	<p>【著書】 「増補改訂版 魚類生理学の基礎」, 恒星社厚生閣, 分担執筆 (2013)</p> <p>【論文】 ○ Reproductive biology of salmoniform and pleuronectiform fishes with special reference to gonadotropin-releasing hormone (GnRH). Aqua-BioScience Monographs (2010), 3, 39-72. ○ Biochemical and immunohistochemical analyses of a GnRH-like peptide in the neural ganglia of the Pacific abalone <i>Haliotis discus hannai</i> (Gastropoda). Zoological Science (2010), 27, 656-661. ○ 魚類の性中枢に関する内分泌学的研究. 日本水産学会誌 (1999), 65, 613-616.</p> <p>【委員・役員歴】 日本水産学会水産教育推進委員会委員長 (2013-)</p>	
神奈川県との関わり	横浜市金沢区出身ですが、現在のところ特にありません。	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】 魚類におけるストレス系と摂食・生殖との関連 地球温暖化が魚類の増養殖に及ぼす影響を低減化するための基礎研究 水産無脊椎動物における神経ペプチド（脳で作られるホルモン）の生理機能</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 北里大学海洋生命科学部は、東日本大震災により岩手県大船渡市三陸町から相模原市へ移転してきました。海洋生命科学の裾野を広げるためにも、今後は出張講義やオープンキャンパスなどを通して神奈川県内の高校との連携を強化できればと考えています。</p>	
連絡先	<p>〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1 北里大学海洋生命科学部魚類生理学研究室 電話：042-778-8884 E-mail：amanoma@kitasato-u.ac.jp</p>	


神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	清原 寛章 (きよはら ひろあき)	
現職	北里大学大学院感染制御科学府・北里生命科学研究所教授(薬学博士)	
主な経歴	(社)北里研究所・東洋医学総合研究所・基礎研究部副部長、北里大学北里生命科学研究所准教授を経て、2013年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	漢方薬学、多糖生物学、動的天然物科学	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】 薬学生のための漢方医薬学(南江堂、分担執筆)、Comprehensive Glycoscience (Elsevier、分担執筆)</p> <p>【論文】 清原寛章: 和漢薬由来アラビノガラクトンなどの多糖の構造と生理活性、<i>応用糖質科学</i>, 1, 224-231 (2011); H. Kiyohara, T. Uchida, M. Takakiwa, T. Matsuzaki, N. Hada, T. Takeda, T. Shibata and H. Yamada: Different contribution of side-chains in β-D-(1 \rightarrow 3,6)-galactans on intestinal Peyer's patch-immunomodulation by polysaccharides from <i>Astragalus mongholicus</i> Bunge, <i>Phytochemistry</i>, 71, 280-293 (2010)</p> <p>【委員・役員歴】 Journal of Natural Medicine 編集委員、Journal of Traditional Medicine 編集委員、和漢医薬学会評議員、日本生薬学会評議員</p>	
神奈川県との関わり	地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域) 神奈川国際ライフサイエンス実用化開発拠点地域事業)	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】 感染症やアレルギー性疾患などともにがんや動脈硬化、老化、情動不安など多くの疾患の発症、進展に免疫系の異常が関わっていることが明らかとされつつある。腸管に存在する腸管免疫系は全身の免疫系の司令塔となっているが、一部の食物繊維成分(多糖体)が腸管免疫系の機能を調節することが明らかになりつつある。この免疫機能性の食物繊維を高度に利用し、健康寿命を延ばす学問体系を構築し、社会に貢献したいと考えている。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】 食物繊維はこれまで腸管内の環境を整える観点のみから注目され、その高度利用には至っていない。地域イノベーション戦略支援プログラムを通して漢方医学的な観点からの食成分の健康維持・増進への高度利用に関する事業を神奈川県とともに推進し、新しい食育概念を社会に広げていけることを期待している。</p>	
連絡先	〒108-8641 東京都港区白金5-9-1 北里大学北里生命科学研究所・和漢薬物学研究室 電話: 03-5791-6174 E-mail: kiyohara@lisci.kitasato-u.ac.jp	

神奈川の研究者紹介<Intellectual Resources of Kanagawa>

氏名	栄長 泰明（えいなが やすあき）	
現職	慶應義塾大学理工学部教授（博士（工学））	
主な経歴	1999年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、東京大学助手を経て2001年慶應義塾大学理工学部専任講師。助教授、准教授を経て2011年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	機能材料化学、光化学、電気化学、ダイヤモンド電極	
主要業績 （これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	<p>【著書】</p> <p>”Diamond Electrochemistry”（編集）(Elsevier and BKG) 2005年・「機能材料パーフェクトガイド」（共著）（講談社）2012年・他</p> <p>【論文】</p> <p>”In vivo assessment of cancerous tumors using boron doped diamond microelectrode”, <i>Sci. Rep.</i>, 2, 901 (2012), ”Reversible Optical Manipulation of Superconductivity”, <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i>, 49, 372-374 (2010). 他</p> <p>【委員・役員歴】</p> <p>文部科学省研究振興局・学術調査官（2008-2010）、日本化学会代議員（2012-2013）他</p>	
神奈川県との関わり	（財）神奈川科学技術アカデミーとの共同研究（1996年～現在）	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <p>近未来、次世代に利用されることが期待される新しい機能材料を創製することを目標としています。なかでも、現在注力しているのが「光で制御できる磁性・超伝導材料」や「ダイヤモンド電極」です。このうち、「ダイヤモンド電極」は、ホウ素をドーブした導電性的人工ダイヤモンドを作製して新しい電極材料として利用するものです。これが、次世代の環境モニタリングシステム、バイオ、生体計測システム、環境浄化システム、創薬のシステムなど、さまざまな方面へ応用できることが分かりつつあり、これを産業界へ展開することも視野に入れて、新しいイノベーション推進に広く貢献できる技術となることを目指しています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>将来の環境改善技術や医療技術として、大学が独自に開発に取り組んでいる新材料、新技術について、神奈川県と連携することにより、神奈川県の環境改善、医療へ貢献できることを期待しています。</p>	
連絡先	〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1 慶應義塾大学理工学部化学科 電話：045-566-1704 E-mail：einaga@chem.keio.ac.jp	

神奈川の研究者紹介 < Intellectual Resources of Kanagawa >

氏名	鈴木 哲也 (すずき てつや)	
現職	慶應義塾大学理工学部教授 (工学博士) 慶應義塾先端科学技術研究センター 所長	
主な経歴	東京工業大学工学部無機材料工学科卒業、同大学院原子核工学科博士課程修了、2005年より現職	
専攻分野・研究テーマ	薄膜工学、低コスト表面処理技術の開発	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	2003 : NEDO ナノテクノロジー室 主任研究専門員 (兼) 2003 : NEDO ナノテクノロジー室 プログラムマネージャー (兼) 研究開発室 プログラムオフィサー (兼) 2006 : 神奈川県環境調和型機能性表面プロジェクト研究リーダー (大気圧プラズマ法による炭素膜の作製) 2006 : 文部科学省都市エリアプロジェクト研究リーダー (神奈川県産業技術センターに公設ラボ構築) 2007 : NEDOナノテクチャレンジプロジェクト研究リーダー代行 (表面改質を利用した医療機器の開発) 2009 : JST 日本—フィンランド交流事業 研究リーダー (ダイヤモンドライクカーボン薄膜のトライボロジー特性) 2009 : 関東経済局 低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 研究リーダー (表面改質を利用したペットボトルのリユース) 2012 : 慶應—神奈川モノづくりセンター開設責任者	
神奈川県との関わり	2006-2011 神奈川県プロジェクト「環境調和型機能性表面」リーダー、2006-2008 文部科学省都市エリアプロジェクトリーダー、2006-現在 神奈川県産業技術センターと公共試作開発ラボに関して共同研究	
メッセージ	<p>【現在、関心をもっている領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト・高機能表面処理技術の開発 ・ダイヤモンドライクカーボン薄膜のプラスチックへの被覆、ステント、人工心臓、紙容器への適用 <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>神奈川県は日本一のR&D地域であり、大企業だけでなく、優良中小企業も多い。神奈川県庁を中心に是非、我が国の製造業の発展に貢献していただきたい。</p>	
連絡先	〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1 慶應義塾大学理工学部機械工学科 電話 : 045-566-1509 E-mail : tsuzuki@mech.keio.ac.jp	